

2025 年度 市民活動センター運営協議会（第 2 回） 議事録

■日 時：2025 年 10 月 1 日（水）19:00～21:00

■会 場：プラッツ 6 階 第 1 会議室 B

■参加者：

委員：駒ヶ嶺 久美（副委員長 府中市市民協働研究会）

西郷 匠（府中動画配信部）

進藤 美津江（市民活動コーディネーター卵の会）

関根 正敏（委員長 中央大学商学部 准教授）

藤原 ちひろ（明治安田生命保険相互会社 武蔵野支社 府中中央営業所 営業所長）

藤原 美江（府中童謡の会）

松木 紀美子（府中市自治会連合会総務部）

福嶋 史江（府中市協働共創推進課課長）

橋本 薫（府中市市民活動センター プラッツ施設管理課長）

林 丈雄（府中市市民活動センター プラッツ館長）

事務局：兒嶋、高橋、道具

オブザーバー：加瀬、徳吉（府中市協働共創推進課）

（敬称略）

■次第

1. 開 会

2. 挨 拶 関根委員長挨拶。

3. 議 事 進行：関根委員長

(1) 大交流会（仮）の進捗状況

事務局から、プラッツが企画している 1 月 31 日に実施予定の「大交流会（案）」について
目的や内容、ゴールなど、企画書（案）をもとに説明を行った。

(2) これまでの会議で、率直な意見が飛び交っており、大変うれしい。いっぱい話せる会にし、
プラッツのあり方について考える会としていきたい。今日は、大交流会にいろいろな人に参加
してもらうために、何をすればいいのかについて、アイディア出しを行いたい。

【第 1 グループ】

- ・広報がテーマであるが、デザインに落とし込むにあたり、5 階スペースで、100 人規模の交流会は初で、5 階スペースの場づくりとして、敷居が高いものをいかに魅力あるものにしていくのかを考えると、最初から最後まで話だけではなくアクションがあるのもいいかもしれない。まず 1 つのコンテンツとして、導入のアイスブレイクとして日本の遊びを取り上げ、お手玉・折り紙・おはじきなど体験してもらいながら楽しい雰囲気づくりを行い、話しのきっかけを提供する。
- ・また、5 階のフリースペースで、このようなイベントが企画できること、プラッツの魅力を知って

もらう機会とする。協働する企画を考える場として、協働のアイデア出しを行ったり、企業どうしの交流や連携できる場ともなるのではないかな。

- ・交流コンテンツの 1 つとして、多言語、やさしい日本語を交えた交流もありではないか。障がいのある人たちも一緒に、授産施設や支援者、ちーはも、はばたきなどとの連携など、ハブが色々あって、巻き込んでいけば情報が流れていく。授産施設にお弁当を作ってもらったり、警察にもきてもらって詐欺にあわないような講習も可能なのでは。

【グループ 2】

- ・集客について、すでに事業をやってネットワークを作りたい人ではなく、一般市民・学生・社会人 1,2 年目の人、子育てが終わった人などの「これから何をしようかなと思っている人」や「これから社会に出る人」に参加してもらうには、「一緒に考えよう」とか「交流しよう」と伝えと、参加するのはやめにしようという反応になりがちなので、まずは出入り自由とするのがいいのではないかな。
- ・企業名を出して広報すれば、マッチングしたい企業ではなく、純粋に聞いてみたい人が参加したり、学生が企業の CSR を知る機会となったり直接企業の人と交流できる機会として活用してもらえるのではないかな。企業名を出すことで参加者が多くなったら、「名刺交換エリア」と「マッチングエリア」に分け交流してもらうことも可能ではないかな。
- ・広報としては、「駅での大きいポスター」「図書館」「学校の出入り口の掲示板」などにポスター等を掲示するなど、あらゆる手段で呼び込むことが必要。

【グループ 3】

○各主体への広報について

- ・企業に対しては、市内の企業向けに事前にアンケート依頼などアプローチをした上で交流会に誘うなど、段階的に行うと、参加することのメリットなど理解いただき参加に結びつきやすいのでは。リタイア直前の人向けにレクチャーする企業があるので、そこにアプローチする方法もある。
- ・市民活動団体に対して
発信する場を求めている団体も多いから、そのような場になることを伝える。また、自分達のイベントへの勧誘ができたり、自分達の応援団、新規メンバー等を見つけられる場であるとよい。
- ・行政に対して
市民の声を聞くことができる場に関心を示すと考えられる。

○参加したくなる工夫について

- ・タイトルに「企業の話聞く」とあると、参加者は受け身になってしまう。参加者誰もが対等な関係で交流する場であることを示すために、チラシには内容のひとつとして「企業の話聞くことができる」ことを載せた方がよい。
- ・面白いことをやっていそうだから、行ってみようと思うような表現を入れる。
- ・いくつかの事例に触れ、これも社会貢献なのだと気づく場になるとよい。
- ・参加者の情報を紙で渡すなど持ち帰ることができるものがあるとよい。
- ・様々な団体が集まる協働まつりで大交流会を告知するのがよい。

■振り返り

次回は、大交流会が終了した直後となるので、感想を持ち寄り振り返りをしたい。また 3 つの課題のうちの一つ「コーディネートのある方」のディスカッションもしたい。そして、2 年の振り返りをそれぞれの視点から発言してもらい、それらをプラッツへのアドバイスや成果としてまとめとしていきたい。

【今後の予定】

- ・大交流会 2026 年 1 月 31 日（土）開催予定
- ・第 3 回運営協議会 2026 年 2 月 5 日（木）19:00～21:00